

# 「急性期病院の栄養介入患者における血清銅低値の割合と 影響因子の検討」の情報公開

## 【はじめに】

ミネラルに分類される「銅」は多くの食品に存在し、1日の必要量が微量であるため欠乏することは稀とされています。一方、病気のある方では色々な要因により欠乏し、貧血や白血球と好中球の減少を呈すると報告されていますが、急性期病院における銅欠乏の有病率や有意な銅欠乏の要因は不明です。

そこで本研究は、当院の入院患者における血清銅低値の割合および銅欠乏の有意な要因、血清銅低値者における血球減少の割合を把握することを目的としています。

## 【対象】

別府医療センターにて2017年4月1日から2020年9月30日までに血清銅の測定および管理栄養士による栄養介入を行った入院患者を対象としています。血清銅が低下する先天性疾患(メンケス病、ウィルソン病、フェニルケトン尿症、セリアック病)は除きます。

## 【研究内容】

対象となる患者の診療録より年齢、性別、身長、体重、体格指数、病名、栄養補給方法、摂取栄養量、生活自立度、胃切除術後歴、血液検査値(銅、亜鉛、白血球、好中球、総リンパ球、ヘモグロビン、平均赤血球容積、平均赤血球ヘモグロビン濃度、血小板、総蛋白、アルブミン、トランスアミナーゼ、C反応性たんぱく(CRP)、尿素窒素、クレアチニン、薬剤を調査して、血清銅が低下している者の割合と血清銅の低下と有意に関連する事項について解析を行います。

診療録に記載された内容のみを用いて本研究を行いますので、患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。本研究で診療録情報の使用を希望されない場合には、下記の連絡先までご連絡下さい。本研究の参加を拒否された場合でも不利益を受けることはありません。

## 【個人情報の管理について】

本研究はヘルシンキ宣言、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従って実施します。個人情報の漏洩を防ぐため、臨床研究に関する氏名などの個人情報は削除し、第三者が個人情報を閲覧できないようにしております。また、本研究の実施過程、および結果の公表(学会発表・論文発表)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれないように配慮しています。

**【研究期間】**

倫理審査委員会から 2022 年 3 月 31 日(予定)

**【利益相反】**

本研究にかかる利益相反はありません。

**【医学上の貢献】**

長期入院患者以外での銅欠乏の有病率における報告はなく、急性期病院の入院患者の実態は明らかとなっていません。加えて、銅欠乏症の認知度は低く、骨髄所見から骨髄異形成症候群と診断される可能性もあり、銅欠乏症を疑うことは極めて重要です。また、白血球、好中球減少を契機に診断に至ることがありますが、貧血のみでは銅欠乏が疑われることは少なく、貧血の原因として見逃されている可能性があります。本研究で血清銅の実態を把握することは、医療者への認知度を高めることに繋がり、貧血などの血球減少の治療に貢献できる可能性があると考えられます。

**【研究責任者・連絡先】**

国立病院機構 別府医療センター 栄養管理室

安藤翔治

〒874-0011

大分県別府市大字内竈 1473 番地

TEL 0977-67-1111 FAX 0977-67-5766